

---

# 教育総合センター

NO. 179

## だより

令和 8. 3. 2

---



### 信 頼 関 係

学校教育課

課長 民谷 洋二

私は現在にいたるまで、中学校社会科の教員、尼崎市教育委員会事務局の指導主事、中学校の教頭、小学校の校長、中学校の校長と、様々な組織と立場で経験を積んできました。

今、自らの経験を通して「より良い組織づくりを進めるうえで大切なことは『信頼関係を築くこと』」と思っています。良い組織をつくるためには、時間がかかるように思えても、「いかにして信頼関係を築いていくか」を考え、実践していくことが大切だと思います。

例えば、学校現場で考えると、組織の中には様々な人間関係があります。教職員間、管理職と教職員、教員と児童生徒、児童生徒間、教職員と保護者、学校と地域などですが、全ての人間関係において、信頼関係がなければ、より良い組織を目指していくのは難しいと思っています。

「信頼関係をどのように築いていくのか」については、それぞれに自分の得意なことを活かすなど工夫をすればよいと思いますが、私は「対話を重ねること」が大切だと思います。特に、管理職としては、対話する中で「相手の話をよく聴くこと」を心がけてきました。

対話やコミュニケーションを上手に行うための心がけとして、「相手に対しては、鏡に映っている自分と思って接する」という話を聞いたことがあります。自分が笑顔になれば、鏡に映った自分の顔も当然、笑顔です。対話をする時に、例えば、

こちらが厳しい表情で責めるような話し方をすれば、相手も同じように険しい表情になり、攻撃的な感情になってしまいます。そのように、自分の表情や感情によって相手の反応が変わるということはあると思います。

こちらが誠実な対応をすれば、相手も真摯に受け止めて対応してくれるということもあると思いますので、対話が上手くいかない時は、まず自分の気持ちや姿勢を見直すことが大切だと思っています。ただ、私自身、頭ではわかっている、感情的になることもあり、実践するのはなかなか難しいことです。

今も「自分が置かれた立場で、どのようににより良い組織づくりに取り組んでいけばいいのか」を考え、試行錯誤を重ねていますが、時々、ふと思いついて自分に言い聞かせる言葉があります。

それは「いつも自分らしく」という言葉です。私は校長として、児童生徒の皆さんに、式辞や朝礼での話の中で「皆さん一人ひとりに素晴らしい力があって、あなたにしかできないことがたくさんあります。」「まわりの人と比べる必要はありません。自分の力を信じて、いつも“自分らしく”を忘れずにいてください。」と話してきました。

児童生徒の皆さんに話してきたことを、自分自身が実践できるように、これからも「自分らしく」、努力を積み重ねていきたいと思っています。

## ☆☆ともに歩んだ一年間を振り返って☆☆

今年度は、例年より多い77名の初任者が本市に採用され、1年間の初任者研修を実施しました。4月1日、緊張した面持ちの初任者と辞令交付式で対面したときのことを昨日のこのように覚えています。その日から始まった初任者の教員としての第一歩、そしてともに歩んだこの1年間は、指導主事として関わった私にとっても、学びの連続でした。

初任者研修では、法定研修として、22日間の校外研修が課されています。尼崎市は、中核市として、そのうち14日間の市の教育課題に基づいた研修として実施しました。初任者の研修後の振り返りや、研修での対話を通して、初任者の感想や心に残った学び、悩み、気づき、そしてこれからの抱負に触れることができました。

ある初任者は、「何事もうまくいかない日、自分だけができていないのではないかと思いきり落ち込んでいました。しかし研修で、“できないことを卑下するのではなく、自分だからできることを探すこと、また、できないことをどうすればできるようになるかをゆっくり考えればよい”とっていただき、気持ち軽くなりました」と振り返っていました。

また別の初任者は、「授業について考える中で、振り返りの場で仲間の意見を聞き、授業を考えることは面白いと気付きました」と記していました。こうした声からは、初任者の悩みを力に変えようとする姿勢、そして児童生徒の実態に応じて授業をデザインすることの難しさとともに楽しさを感じていることが伝わってきます。悩みながら前に進もうと研修に取り組む姿を嬉しく、心強く思うとともに、私自身、忘れかけていたことを思い起こさせてもらい、とても素敵

な14日間を過ごすことができました。

研修全体を通して、多くの初任者が共通して挙げていたのは「仲間の存在の大きさ」です。学校を離れ、研修の場で同期の仲間と成功や悩みを共有することは、心の支えになったようです。初任者が互いに学び合い、励まし合う姿は、研修を実施する上で大きなエネルギーとなっていました。

この1年間、初任者研修を担当するにあたって私たちが大切にしてきたことがあります。それは、校長先生・教頭先生をはじめ、日々初任者を支えてくださっている多くの方々と同じように、私たち指導主事も共に初任者と伴走する存在でありたいという思いです。初任者にとっては、授業づくり、児童生徒理解、保護者対応など、日々の一つひとつの経験や出来事は、ときに大きな負担になります。指導主事である私たちが「初任者を支える一人」として寄り添える関係を築きたいと考えてきました。

最後に、改めて初任者の皆さんへ。

まずは、共に過ごした1年に感謝を述べるとともに、皆さんの1年間の努力に心から敬意を表します。2年次になると、一つ先輩となり、求められる役割も少しずつ変わっていきますが、一人で抱え込まず、悩むことを恐れず、「学び続ける教員」であり続けてほしいと思います。

私たち学び支援課は、皆さんの伴走者として、学校と一体となり、そっと後押しできる存在でありたいと考えています。来年度以降、研修や学校で皆さんに会えることを心から楽しみにしています。

1年間、ありがとうございました。

(学び支援課 指導主事 西田 篤司)

## ☆☆尼崎市立尼崎琴葉中学校がまもなく開校します！☆☆

### 1 『尼崎琴葉』の由来

『尼崎琴葉』は、市内外在住を問わず、132名の方々からいただいた案・アイデアを基に、様々な選定ステップを経て決まった名前です。『琴』の字は、学校を設置する地に『琴浦城』と呼ばれた尼崎城があったことや、既に多様な学びを実践している『成良中学校琴城分校』と『琴ノ浦高等学校』に由来しています。地名や連携予定の近隣の学校に用いられている『琴』という字により、尼崎の土地・地域や多様な学びの場の一体感・つながりを感じることができるようになったと考えています。『葉』の字は、空に向かって生徒がのびのびと成長や個性を發揮していくようなイメージを連想させるものです。葉には様々なかたちや色合いがあり、それぞれの良さがあります。そのような葉の姿に、学校で学ぶ生徒を重ね合わせています。また、『琴葉』の前に『尼崎』とつけていますが、『市内全域』の子どもたちを対象とした尼崎市の学校であるという意味が込められています。

### 2 基本理念と学校づくりの5つの視点

学びの多様化学校の設置に向け、基本理念を『子どもセンターの視点に立ち、地域や社会、そして未来とのつながりのなか、一人ひとりが最大限のウェルビーイングの向上を実現できる場所』と決めました。また、学校づくりの視点として、『①尼崎市全体の学びの多様化を推進するためのフラッグシップ校をめざす、②子どもにもおとなにもそれぞれの安心・安全な居場所づくりをめざす、③子ども一人ひとりへの教育的ニーズに対応できる、④多様な職種の職員による支援を行う、⑤子どもの「意思決定」を尊重し、個々に応じたライフデザインを描け

るこどもを育てる』の5つを掲げました。令和6年4月に担当が組織されてから今に至るまで、この基本理念と学校づくりの5つの視点を大事にしながら、設置準備を進めてきたところです。

### 3 児童生徒の取組

入学・転学の検討のために実施した2回の面接と体験活動には、多くの児童生徒が参加してくれました。2回の面接では、全参加者一人ひとりと話すとともに、体験活動では、それぞれの様子を観察しましたが、現状から踏み出し、面接と体験活動に取り組んだ児童生徒の頑張りを感じました。結果として尼崎琴葉中学校に入学・転学することになってもそうでなかったとしても、頑張った自分自身に自信をもち、これからも前に進んでほしいと思います。

### 4 新たなチャレンジが始まる

この職を担って感じたことは、『誰もやったことのないことを今からやろうとしている』という感覚です。それゆえに準備も大変さを極めました。色々な方々の協力を得てやっとここまですることができました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございます。

尼崎琴葉中学校はこの4月に開校します。これはゴールではなく、スタートです。学校を一から作る大変さ・難しさはありますが、尼崎琴葉中学校の教職員には『チャレンジ』する気持ちを忘れずに、取り組んでほしいと思います。安心・安全な居場所、生徒の自分らしさが發揮できる場所となることを目指し、これから尼崎琴葉中学校の新たなチャレンジが始まります。  
(学びの多様化学校設置準備担当課長 石井 郁樹)

## 教育情報コーナーのお知らせ

### ☆教育情報コーナーのご案内

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。また、必要な図書、資料等のご相談にも応じております。お気軽にお尋ねください。

(3F 教育情報コーナー)

#### 【新着図書】

- ・『「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン「みるみる」』  
文部科学省 著／東洋館出版社
- ・『最新教育動向2026 必ず押さえておきたい時事ワード60&視点120』  
教育の未来を研究する会 編／明治図書
- ・『「愛と知の循環」としての保育 ～世界を愛することを学ぶ』  
無藤隆 著／北大路書房
- ・『多様な性を生きる ～LGBTQ+として生きる先輩たちに人生のヒントを聞いてみた』  
松岡宗嗣 著／河出書房新社
- ・『学びの心理学 ～授業をデザインする』  
秋田喜代美 著／左右社
- ・『「自分が嫌い病」の子どもたち ～自己否定のループから抜け出すための心理的サポート』  
成重竜一郎 著／合同出版
- ・『学校におけるケアの実践 ～子どもの安心・安全、ウェルビーイングのために』  
庄司一子 編著／金子書房

(担当 松浦)

### ☆「ひと咲きタワー」は、学びのタワー！

#### 【本の紹介】

■『世界の教育はどこへ向かうか 能力・探究・ウェルビーイング』 中央公論新社 2025年2月初版発行  
著者 白井 俊 : 東京大学卒業 コロンビア大学法科大学院修士課程修了 2000年文部省(現・文部科学省)入省 初等中等教育局、高等教育局、国際統括官付等で勤務 その間、OECD(経済協力開発機構)、独立行政法人大学入試センター・イノベーション推進事務局に outward 2025年8月より東京科学大学執行役副学長・執行役副理事・事務局長

主な著書『OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来』(ミネルヴァ書房)

文部科学省において、日本の教育制度や教育課程、大学入試といった教育の根幹の部分に関わるとともに、OECDとユネスコという教育に対して影響力を持つ2大国際機関、さらにG7という国際的なサークルについて、深く知る経験をされた著者が、国際的な教育の動向をしっかりと目配りしながら、批判的な視点を忘れずに日本の教育の強みを生かしていく視点で書かれた本である。

現在、教育界で幅広く浸透している「ウェルビーイング」や「非認知能力」「コンピテンシー」「探究」などの考えが生まれた経緯や趣旨などが、わかりやすく解説されると共に、わが国と国際的な使われ方の違い等も説明されており、今後の教育の動向を知る上でも参考になる1冊である。

※教育総合センターには、すてきな本がたくさんあります。

(担当 西川)